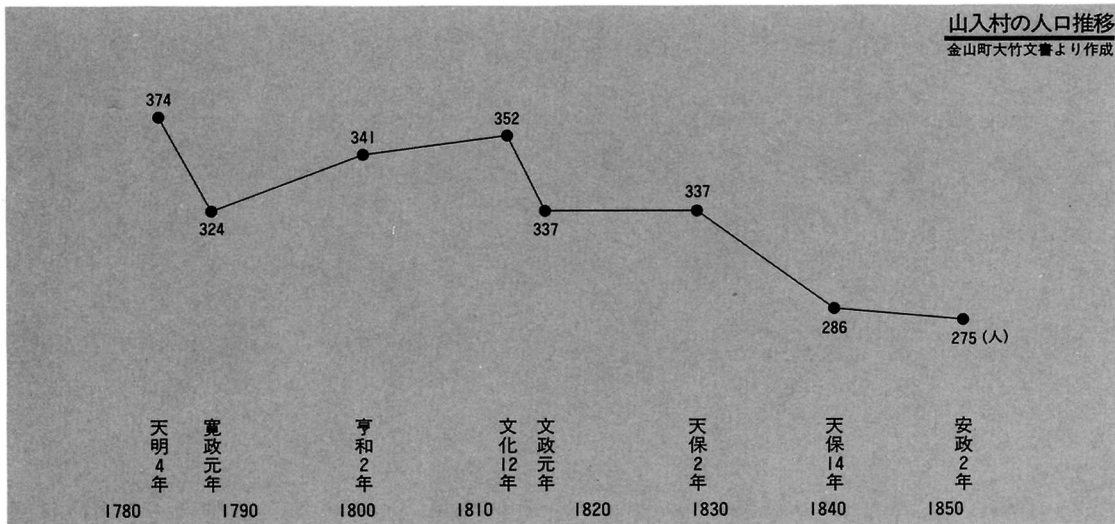


山入村の人口推移
金山町大竹文書より作成



天明辰年差引拾五軒減

一、人数 三百貳拾四人内百七拾壹人男

百五拾三人女

右同断辰年差引五拾人減

一、馬拾六疋

右同断辰年八疋減

とあります。

飢饉の後遺症はすさまじく、名主が村勢の衰えを嘆いている様子が目に見えるような記録です。

天明の飢饉の五十年後には天保の飢饉がやってきます。天保四年（一八三三年）山間部では殆どどの村で皆無作、平地でも二分作、三分作程度でした。大塩組の記録に「欠落四十三戸、死失二十人、身売り三十九人、生活困難百十五人」とあります。山入村の十二月現在の報告には「五年二月まで食いつなげる者十四軒、四月まで五軒